

仏教の最も基本的な考え方の一つであるが、一般には、  
「縁起エンギがよい、悪い」といった用い方をされ「まわり合わせがよい、悪い」という迷信的な意味になり、仏教の正しい考え方には反している。

釈迦シャカがさとした縁起キョウテンとは経典の中で、「これあればかれあり、これ生ずるが故にかれ生ず、これなければかれなし、これ滅するが故にかれ滅す」と、表現されている。

すなわち、いかなるもの（人）でも他に依存して生まれ、存在している。自分は、他人がいてはじめて存在する。すべてのものがお互いに関連して存在し、生滅する。これが縁起である。

何か起きた場合、それには何らかの原因がある。日常の苦しみも原因あってのこと。その原因をなくせば、苦しみもなくなる。苦しみの原因をとりのぞくには、人間の知恵が必要である。